

Comment

Effect of biopsy site on detection of gastric cancer high-risk groups by OLGA and OLGIM stages

Helicobacter 22: e 12442

様々な生検部位を組み合わせてOLGA/OLGIM分類を行い、どのプロトコールが最も正確に胃癌リスクを評価できるかについて詳細な検討を行っている。また、胃体部からの生検についても、大弯小弯からの生検が前後壁よりも望ましいことを示したことも評価に値する。しかし、対象となった患者の85.8%が胃癌あるいは胃腺腫といった腫瘍性病変を持つため、今回の結果がそのまま多くの *H. pylori* 感染胃炎の例に当てはまるかどうかは判断が難しい。また、胃体部の大弯・小弯からの生検が前後壁からの生検よりも望ましいということであるが、大弯と小弯が生検後同じ瓶に回収される（前後壁についても同様）ため、大弯と小弯（あるいは前壁と後壁）をそれぞれ比較検討していない。大弯よりも小弯の萎縮や腸上皮化生のスコアが高くなる場合が多いと予想するが、そのあたりは興味深く、今後の更なる検討課題と思われる。

(北海道医療大学病院消化器内科 工藤 俊彦)
